工業っ子

平和号号外
—発行日—
2025.08.09
—編集—
長崎工業高校新聞部
—発行—
長崎工業高校新聞部

平和な世界をめざして

R7　平和号号外

笑顔のなかにある平和を願う強い想い

ー被爆者の方の写真撮影を通して

令和六年七月十九日に原爆被災者協議会の講堂にて、被爆者の方の写真を撮影しました。被爆二世である石田久美さんがアメリカ・ロサンゼルスのウエストリッジスクールで長崎の被爆者の体験を講演するにあたり、被爆者の写真を持っていきたいと新聞部への写真撮影の依頼がありました。（石田さんのお父様の山田繁人さんは長崎工業高校の卒業生）写真は被爆者の方がそれぞれ平和への思いを記したメッセージボードを持って撮影。どの方も笑顔で撮影に応じてくださいました。

◀城臺美彌子さん

▶森田宏さん

▲綿谷頼子さん

▶依頼された石田久美さんとお父様の山田繁人さん

◀撮影後のインタビュー

被爆者の方へインタビュー

また、石田さんからも高校生にぜひ、取材をしてもらえればとも言っていただき、被爆者の方々にお話を伺うことができました。

平和への想いを込めて被爆者の方のメッセーボードの言葉

写真撮影のときに被爆者の方々が書かれたメッセージボードには平和への真剣な想いがありました。ここに紹介したいと思います。

◇世界の人たちと仲よくなれば戦争はなくなりますねみんなであいさつをしよう　綿谷頼子さん

◇NO MORE HIBAKUSYA　横山照子さん

◇長崎を最後の被爆地に　溝浦勝さん

◇平和　小峰秀孝さん

◇核のない平和な世界を！　長野靖男さん

◇核の根絶以外に平和の追求はできません　森田 宏さん

◇いついつまでも平和を　山田繁人さん

◇戦争も核兵器もない平和な空を子供たちに　田中重光さん

◇戦争も核兵器も人類をぼろぼろにします共に平和に！世界に平和を！　城臺美彌子さん

憲法9条に込められた平和への思いをデザイン

「憲法9条の碑」デザイン画の感謝状贈呈式が令和七年二月二十五日、本校会議室で行われました。被災協の方々と。中央の絵が二つの案をあわせた憲法9条の碑デザイン

◀感謝状の贈呈

この日、集まられた被爆者の方々に若い世代に向けてのメッセージをお願いしました。

ー溝浦勝さん

この出来事を二度と繰り返さないでほしい。戦争、核兵器のない世界を作ってほしい。

ー横山照子さん

原爆やその被害について知ってほしい。人の命が一番大切。加害者側には立たないでほしい。自分の信念を持って行動してほしい。

ー綿谷頼子さん

どんな国の人でも自分と同じ人間なのだから仲良く挨拶してほしい。そうすれば戦争も少しなくなっていくと思う。

▼被爆者の方のお話を聞くことができる時間も限られてきています。被爆者の方々の平和への思いが伝わってくる撮影会でした。

「憲法9条の碑」のデザイン画は長崎原爆被災者協議会（被災協）が被爆八十年記念事業として企画されているものです。そのデザイン考案原爆で多くの生徒・教職員が亡くなった歴史のある本校に依頼されました。

この日は三百二十四点の応募作品の中から選ばれた森本琉生さん（M2）と河間龍斗さん（R7・月卒C科）に被災協の方から感謝状が贈呈されました。

感謝状贈呈式のあと、作品が選ばれた二人にインタビュー。選ばれた感想や作品にこめた想いについて聞いてみました。二人とも選ばれた喜びとともに、河間さんは「正直、自分のデザイン案が選ばれるとは思っていなかったので驚きました。嬉しかったです。

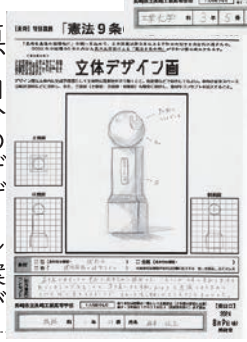
作品には想いというよりも、どういう意味をこの碑に持たせるかということを考えながら描きました。平和を意味する緑色の球体を白い手が優しく包み込むというデザインを描きましたが、碑ということもあって平和を守るという意味と石のように固く約束を守るという意味を込めました」とデザインに平和への強い意志を込めたことを、森本さんは「選ばれるとは思っていなくて、びっくりしました。

僕は、少しへこんでいる丸を描き、自分の手をかざすことで綺麗な丸が完成するというデザインにしました。自分の手を使って完成させることで自分も平和の礎の一つであるという意味をこめました」とデザインに自分も平和の礎のひとりであるとの想いを込めたことを話してくれました。

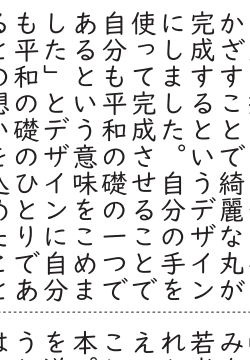
また、当日贈呈式に見えられていた被災協の長野靖男さんと城臺美祢子さんにもお話を伺いました。

長野さんは「原爆で亡くなった方を悼む慰霊碑は数多くあるが、これからは亡くなった方を悼むだけでなく、もっと積極的に発信していく必要があると考え、憲法九条の碑を作ることにした。デザイン画への応募点数が多く、子供たちの平和への思いを感じた。作品のコメントに綴られた平和への思いを読んであらためて、その思いの強さを実感した。私の次男も長崎工業高校の出身で親しみを感じた」と話され、若者への一言として「これからも平和について考えてほしい。平和であることが生きる上での基本。戦時中はろくな生活を送れなかった。今、こうして平和に暮らせるのは先輩方の努力の結果。そのことを頭の片隅にいつも忘れずにおいていてほしい。平和な世界で生きてくれることを願っている。青春を謳歌してほしい」とのメッセージをくださいました。

また、城臺さんは「憲法九条は外国の方が認めている。憲法9条の碑は全国にあるが、九州はほとんどない。原子爆弾はあとからも大きな被害をもたらす。『核』と共存することはできない。ずっと関心をもっていてほしい」と平和の継承への想いを話されました。



▲河間さんのデザイン画



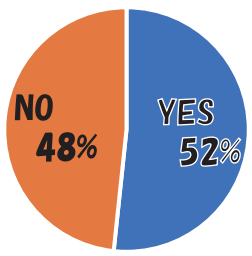
◀森本さんのデザイン画

平和について話すこと、ありますか。

ー昨年のアンケートから

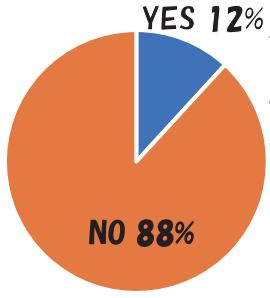
昨年の平和アンケートを振り返りです。この一年、世界ではまたさまざまな紛争がありました。今年も平和アンケートを実施します。アンケートをきっかけに改めて平和について考えてみてください。（回答数七四八）

Q平和について家族や友人と話すことはありますか。



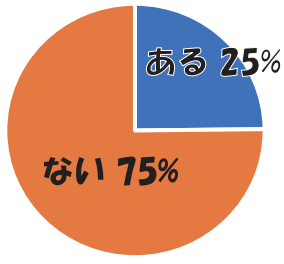
◆半数以上の人がYESと答えています。しかしながらそれと同じくらいNOと答えた人もいます。現在も世界各地で戦争や紛争が絶えません。NOと答えた人もそのことに目を向けてみてはいかがですか。

Q世界は今現在平和だと思いますか。



◆九割近くの人がNOと回答。多くの人が今の世界について平和ではないと考えているようです。私自身も日本だけでなく世界に目を向けるとともじゃないけれど平和と言える状態ではないと思いました。

Q高校生になってから原爆資料館や平和公園などの平和遺構に行ったことはありますか。



一位　平和公園
二位　原爆資料館
三位　爆心地公園

◆回答の中で圧倒的にかったのは平和公園です。他にも広島や沖縄の平和遺構に行ったという日もいるようです。夏休み、改めて訪れ、平和について考えてみませんか。